

# わくわくドキドキならはらテクテク

2026. 3. 30 N029 ならはらの森なかの学舎



なら原っ子「きのうのお話は、とっても楽しかったなあ。今日は、どんなお話かな。」

なら原っ子「あれ、上の写真に、いろいろな貝があるぞ。何ていう貝かな。」

モンタ博士「やあ、なかの学舎のみなさん！今日は、二枚貝について、お勉強しよう。」

なら原っ子「二枚貝は、きのう、ちょっとお話してもらったなあ。」

モンタ博士「写真の貝は、左からチョウセンハマグリ・上からサクラガイ・フジノハナガイ・リュウキュウウミノコ・チザラガイというものだよ。」

なら原っ子「へえー。いろいろな名前があるんだな。ぼく、覚えられないよ。」

モンタ博士「覚える必要なんかないよ。いろいろな貝があるっていうことに、気づいてくれればいいんだよ。あのね、二枚貝というのは、よくみんなが食べている貝なんだよ。お世話になっている貝なんだ。潮干狩りなどでも見る貝だよ。」

なら原っ子「へえー。そうなんですか。どんな貝があるのかな。」

モンタ博士「アサリ・ホタテ・カキ・ムールガイなどは二枚貝なんだよ。」

なら原っ子「アサリって、お味噌汁にする貝だ。」

なら原っ子「ハマグリは焼いてもうまいし、ホタテご飯は最高においしいよな。」

モンタ博士「そうだね。それでは、二枚貝をいろいろと写真で見てごらん。」



なら原っ子「うわあー。二枚貝って、いろいろとあるんですね。」

なら原っ子「そうだね。どれもみんな二枚の貝がらからできているね。」

なら原っ子「ところで、モンタ博士！二枚貝って、どんな所にいるんですか。」

モンタ博士「砂にもぐるアサリ・ハマグリ・マテガイなどもあるし、岩場のくっ付いているムールガイ（ムラサキイガイ）もあれば、砂の上を移動しているホタテなんかもいるんだよ。つまり、海のいろいろな所にいるということさ。」

なら原っ子「モンタ博士、二枚貝って、どんな体のつくりをしているの。」

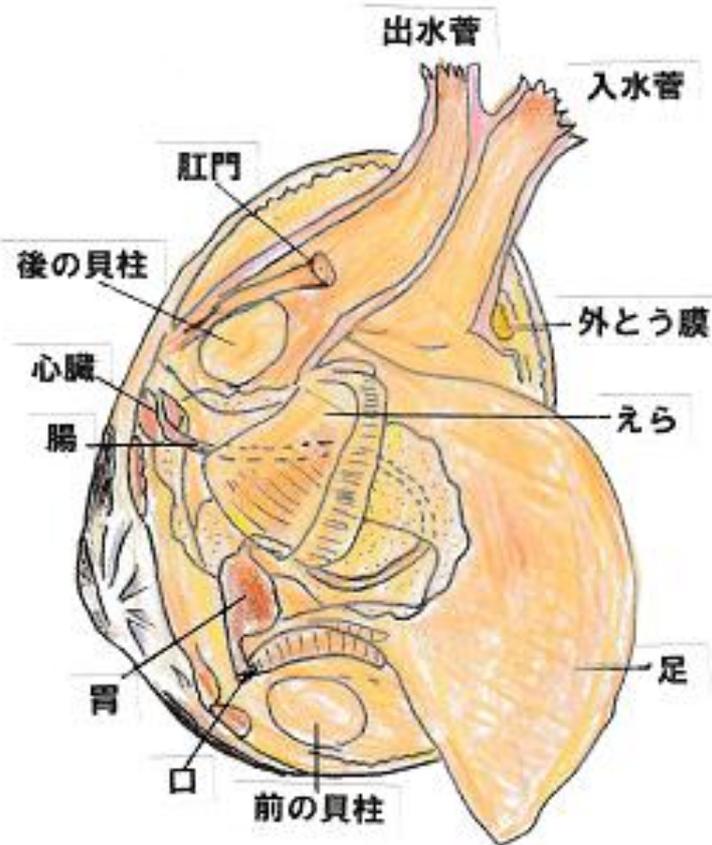
モンタ博士「いい質問だね。二枚貝というのはね、左右対称の2枚の炭酸カルシウムという殻があってね、ガッチリと、敵から自分の体を守っているんだよ。」

なら原っ子「へえー。そうなんですか。」

モンタ博士「それからね、大事な内蔵は、外套膜（がいとうまく）という丈夫な筋肉の皮で、ギョウザのように包んでいて守られているのさ。」

なら原っ子「外套膜？なんだかむずかしい言葉ですね。」

モンタ博士「むずかしいか。そうだな、ホタテを食べる時に、ヒモと呼ばれるものがあるだろう。それが外套膜というものなんだ。次のイラストを見ればいいよ。」



なら原っ子「うわあー。すごいイラストですね。モンタ博士がかいたのですか。」

モンタ博士「あまり上手じゃなくて、ゴメンね。イラストを見ても分かるけど、二枚貝には、目も触覚も頭もなにもないんだよ。よけいな物はないんだよ。」

なら原っ子「目も触覚も頭もない？へえー。変な生き物なんだね。」

モンタ博士「人間とかほ乳類とかとは、ずいぶんと違う体なんだよ。」

なら原っ子「二枚貝は、2枚のからで体を保護して、砂の中や岩場にいるんでしょ。あまり動かないのですか。」

モンタ博士「そうだね。動きはややのんびりしているね。すばしっこさは今一だね。ジイっと静かにしているタイプで、『安全ファースト』の貝だね。」

なら原っ子「上のイラストは、なんだかむずかしそうですね。」

モンタ博士「そうか、ゴメンね。胃とか心臓とかいろいろあるけど、それは無視していいよ。入水管というのがあるだろう。これで水を吸いこんで、海水中の酸素や栄養となる食べ物だけを、上手に濾（こ）しとって、きれいな水を出水管から出しているということなんだ。」

なら原っ子「そうか、海の水をいつもきれいにしてくれるという訳ですね。」

モンタ博士「そうだね。自然環境を守るためにがんばっているえらい貝なんだ。」おしまい！